

小学校 特別の教科 道徳

1 改訂の趣旨及び要点

目標の改善

小学校特別の教科 道徳（以下、道徳科という）の目標は次のとおりです。

第1章総則の第1の2の（2）に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、**道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める**学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

道徳科の目標を「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」として、道徳教育の目標とめざす方向性が同一であることが明確になっています。

また、「道徳的諸価値について理解する」、「自己を見つめる」、「物事を多面的・多角的に考える」、「自己の生き方についての考えを深める」というように、学習活動が具体化されています。

そして、これらの学習を通じて、「道徳的な判断力、道徳的心情、道徳的行為を行うための意欲や態度」を育て、「よりよく生きていくための資質・能力を培う」という趣旨が明確に示されています。

内容構成の改善・充実

内容項目のまとまりを示していた視点については、1～4と呼んでいたものを、児童にとつての対象の広がり即してA～Dに整理し、順序を改めました。

現行学習指導要領 4つの視点	新学習指導要領 4つの視点
1 主として自分自身に関すること	A 主として自分自身に関すること
2 主として他の人とのかかわりに関すること	B 主として人との関わりに関すること
3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること	C 主として集団や社会との関わりに関すること
4 主として集団や社会とのかかわりに関すること	D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

○各学年段階と内容項目の主な変更点

内容項目については、いじめの問題への対応の充実や発達の段階をより一層ふまえた体系的なものとする観点から改善が図られています。

○第1・2学年（16項目から19項目へ変更）

・「個性の伸長」、「公正、公平、社会正義」、「国際理解、国際親善」の内容が追加されました。

○第3・4学年（18項目から20項目へ変更）

・「相互理解、寛容」、「公正、公平、社会正義」の内容が追加されました。

・郷土及び国との関わりに関する内容を統合して、「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」に改められました。

○第5・6学年（22項目）

・「愛校心」に関する内容は、「役割自覚、責任」に関する内容を含めて、「よりよい学校生活、集団生活の充実」に改められました。

・「よりよく生きる喜び」の内容が追加されました。

それぞれの内容項目には、小学校から中学校までの内容の体系的性を高めるとともに、構成やねらいを分かりやすく示して指導の効果を上げるなどの観点から、内容項目の手掛かりとなる「善悪の判断、自律、自由と責任」等の言葉が付記されています。

改善のポイント

○発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人ひとりの児童が自分自身の問題と捉え、向き合う

「考える道徳」、「議論する道徳」への転換を図る、と示されています。

※「考える道徳」・・・主体的に自分との関わりで考えることで、自分の考え方、感じ方を明確にすること

※「議論する道徳」・・・多様な考え方、感じ方に出会い、交流することで、自分の考え方、感じ方をより明確にすること

○指導する教師一人ひとりが、質の高い多様な指導方法へと指導の改善を行う、と示されています。

※質の高い多様な指導方法の例：
読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習
問題解決的な学習
道徳的行為に関する体験的な学習

2 小学校 道徳科における授業づくりのポイント

道徳科の目標に示された学習活動に基づいた授業づくりの充実

道徳科では、内面的資質としての道徳性を主体的に養っていく時間とするために、道徳科の目標に示された学習活動をふまえて授業を工夫していくことが大切です。

① 道徳的諸価値について理解する

思いやりの心が表せたとき、どんなことを思ったかな？

相手の笑顔を見て、思いやりって大切ななあと思ったよ。

大切なのは、分かっているのに、最初ははずかしくてできなかったんだ。

友だちの話を聞いてみると、いろいろな考えがあるんだなあ。

価値理解

人間理解

他者理解

② 自己を見つめる

ブラッドレーは、どんなことを考えながら請求書を書いたのでしょうか。

仕事をしたらお金をもらうのは当たり前だから、僕ももらっていいはずだよ。

ほくだって、忙しいんだ。お手伝いをしてあげているんだから、ごほうびをくれたっていいだろう。

「登場人物の気持ちではなく、登場人物に共感して考える。」

・自分事として考える。

「ブラッドレーのせい求書」
(わたしたちの道徳 小学校三・四年)より

③ 物事を多面的・多角的に考える

どうしてココは涙を流したのでしょうか。

もう遊んでくれないかも。

あんなことしなきゃよかった。

素直にあやまりたい。

こんな自分はイヤだ。

「お月様とココ」
(わたしたちの道徳 小学校一・二年)より

・道徳的価値の様々な面を考える。

・自分の考えと友だちの考えを比べて考える。

④ 自己の生き方についての考えを深める

今日、考えたことを、ふりかえてみよう。

私には、こんなよさがあつたんだなあ。大切にしていきたいなあ。

ここが、ぼくの気になるところだなあ。これから…

伸ばしたい自己を深く見つめる。

これからの生き方の課題を考える。

以上①～④に示すものは、あくまでも例であり、年間指導計画に基づき、児童や学級の実態に即して適切な指導を展開することが大切です。

3 評価のポイント

道徳性を養うことをねらいとする道徳科では、児童の内面的資質としての道徳性を評価するのではなく、その学習状況や成長の様子を、年間や学期といった一定のまとまりの中で適切に把握し評価します。また、個々の内容項目ごとではなく、大きくまとまりを踏まえて評価します。そして、児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として記述式で行います。

【評価の視点】・一面的な見方から、多面的・多角的な見方へと発展しているか (例) 自分と友だちの考えを比べて考えている
・道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか (例) 自分の生活を見つめ振り返りながら考えている

道徳科の評価は、学校として組織的・計画的に行われることが重要です。

例 ○ポートフォリオ評価…ワークシートや作文、レポートに児童の考えを記述させ、ファイリングして見取る工夫

○観察による評価…授業中の顕著な発言やエピソード、話合いの様子を記録して見取る工夫 など

※評価の実践事例は、『特別の教科 道徳』実践事例集』（平成30年 大阪府教育庁）に詳しく記載されています。

授業実践を振り返るポイント

① 価値理解だけでなく、人間理解や他者理解の場面はありましたか

価値理解…内容項目を、人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること

人間理解…道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること

他者理解…道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方は一つではない、多様であるということをも前提として理解すること

② 自己を見つめる場面はありましたか

これまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、さらに考えを深めることを通して、自己理解を深める場面を設定しましょう。

③ 多面的・多角的に考える場面はありましたか

児童が、多様な感じ方や考え方に接することができるように、他者と対話したり協働したりしながら、考える場面を設定しましょう。

児童自らが道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにしましょう。

④ 自己の生き方についての考えを深める場面はありましたか

自分の特徴などを知り伸ばしたい自己を深く見つめられるようにしましょう。また、これからの生き方の課題について考え、それを自己の生き方として実現していくとする思いや願いを深められるようにしましょう。

○児童の発言を傾聴して受け止め、発問に対する児童の発言などの反応を、適切に指導に生かしていましたか

授業実践の振り返りを常に指導に生かし、児童の成長につなげていきましょう。